

所 長 ご 挨拶



国立駿河療養所は静岡県御殿場市にあります。箱根山外輪山中腹の傾斜地で富士山の対面に位置しており、施設内から目の前に富士山を眺める事ができます。

駿河療養所は、1945(昭和20)年6月に傷痍軍人のためのハンセン病療養施設として、国立ハンセン病療養所13施設のなかで最後に設立されました。その後一般の患者の入所も始まり、入所者数は1956(昭和31)年には最大の471名になりました。

ハンセン病は外来での薬物療法が可能な疾患で、退所して社会復帰された方もおられます。国内での発症例は今ではほ

とんどなく、現在は新しく治療のために入所される方はおられません。

現在の入所者は38名で、平均年齢は86歳になりました。入所者の皆様はハンセン病による後遺症はありますが、健康面では同世代の一般の方と変わりはありません。一方で、かつて存在した「らい予防法」をはじめとする強制隔離や差別偏見の歴史の中を入所者は生きてこられました。現在では「らい予防法」は廃止され、差別偏見を解消しようとする啓蒙活動が続けられています。

ハンセン病療養所の入所者は歴史の生き証人でもあり、現在を生きる高齢者でもあります。療養所では、入所者の方がよりよい人生を過ごせるようライフサポート活動を行っています。

新型コロナウイルス感染症の流行は、入所者の生活にも大きな影響を与えました。かつて入所者は強制隔離をされた時代もありましたが、今度は感染防止のために所外への外出を控える「自主隔離」の状態が続き、入所者の外出や一般の方との交流も減ってしまいました。現在では、ワクチンの普及、治療薬の開発、感染対策法が確立されつつあります。今後は、かつてのように一般の方々との交流や啓蒙活動を再開されるように努めてまいります。

2023年4月1日

国立駿河療養所
所長 北島 信一